



あさひ

3月号

令和5年2月28日
横浜市立旭小学校



ASAHI_E.S._YOKOHAMA

「思いをもつ力」 「やり抜く力」 「関わる力」

【WEB】 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/asahi/>

【Instagram】 [asahi_e.s._yokohama](https://www.instagram.com/asahi_e.s._yokohama)

RESTART

“121st SCHOOL YEAR”

「戻りつつある」ではなく 「自らの手で戻す」日常を

校長 益子 照正

年が明けてから早2か月が過ぎ、いよいよ3月を迎えます。校内では1年間の締めくくりの時期、進級後への期待を膨らませながらも、現学級で生活する最終局面に寂しさも交錯する表情を見せるあさひっ子です。

結局、コロナ禍から脱出できないまま3年目も終わろうとしています。社会情勢の変化に伴って学校にも日常が戻りつつあるのが一筋の光明です。

3月18日には、121期生の6年生134名が旭小学校を巣立っていきます。過去3年間の卒業証書授与式では、感染症対策のために入場や行動の制限によって規模縮小を余儀なくされましたが、今年は、コロナ禍以前の卒業証書授与式に近い形で挙げる計画です。

メディアの報道でご存じの通り、教育現場でのマスク着用が緩和されます。国や県、市からの通知によりますと、「学校教育活動の実施に当たっては、マスクの着用を求めないことを基本とする」が原則ですので、この内容を踏まえ、本校においては以下のように対応いたします。

- 卒業生については、式典全体を通じてマスクの着用を求めません。ただし、合唱等の場面においては、感染症対策としてマスクを着用します。
- 教職員については、周囲と十分な身体的距離が確保することを前提にマスクを着用しません。校長の卒業証書授与時も、発声は極めて短時間であることからマスクを着用しません。
- 来賓の皆様、保護者様には、感染対策上マスクの着用をお願いします。
- 基礎疾患や花粉症など様々な事情により、マスクの着用希望や健康上の理由によりマスクを着用できない場合に、マスクの着脱を強いることのないようにします。

小学校生活の後半をコロナ禍のまっただ中で過ごして巣立っていく6年生にとって、「どうして自分たちのときに」というやり場のない思いが少なからずあるのではないのでしょうか。しかし、ここ数年の様々な制限によって、結果的にこれまでの「当たり前」が見直されました。オンライン会議への移行や非接触型機器の流通、フードデリバリーをはじめとするこれまでの想像を超えた業種の登場、学校教育におけるICT機器のひとり1台端末の実現などの様々な新たな生活様式は、コロナ禍によって創出されたものだといえるでしょう。苦い経験が逆に新しい発想を生み出し、急激に変動するだろう近い将来の「当たり前」を生み出しているように思えます。つまり、コロナ禍自体が大きなチャンスだったのかもしれない。この数年間で子ども自身が導き出した発想や試行錯誤して見つけ出した手法を、今後の生活において活かしてほしいと願ってやみません。

次年度には、以前のような日常により近づいていくことと想像しています。多くの行事が全あさひっ子で盛り上げることになり、保護者や地域の皆様にはいつでも学校においでになれる、そんな日常の学校を取り戻していきます。

学校関係者であるすべての皆様の、今年度一年間にわたるご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。